

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	総合政策学部
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものである
要素	教育研究組織の編制原理
	理念・目的との適合性
	学術の進展や社会の要請との適合性
	(KGI)研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学部教育活性化推進委員会のもとで複数教員の参加によるシンポジウム等を定期的に開催する	→シンポジウム等の開催回数	A	A			
2. 適切な特定プロジェクト研究センターの立ち上げ及び見直しにより共同研究を推進する	→特定プロジェクト研究センターの研究会等の開催回数	B	B			
3. 学部研究会の開催により教員の研究分野の相互理解を促進する	→学部研究会の開催回数、出席者数	A	A			
			☆			

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目4.0.1	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。 (説明) 学部の理念・目的のために設定した上記1～3の事業を適切に実行している。研究会雑誌を3回発行したほか、学外向けでは各学科の複数教員による連続シンポジウムを開催、その成果を単行本として刊行している。また、各種の学術的催し(リサーチ・コンソーシアム、リサーチ・フェア)等で、学部生の研究成果を公開している。
☆ 小項目4.0.2	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。 (検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない (説明) 予算編成や決算の際に、各委員会によって、学部や研究会の運営の適切性を検討し、改善を図っている。
その他	“総合政策”にふさわしい教育研究組織を整えるため、複数分野の教員による共同研究のシステムを検討している。また、リサーチ・コンソーシアム等を通じて、学外との連携による産官学の研究体制を整える。

《評価指標データ》

博士研究員（PD）の受入状況
 日本学術振興会特別研究員（DC、PD）の受入人数
 研究誌発行状況
 提携大学との研究誌等の交流状況（送付・受入）
 専任教員の発表論文数【基本的な指標データ】
 学術賞の受賞状況【大学基礎データ】
 学会誌・国際学会議事録等に掲載された学術研究論文件数
 21世紀COEプログラムの採択状況
 文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業の採択状況【基本的な基礎データ】
 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業採択状況【基本的な基礎データ】
 特定プロジェクト研究センター制度の活用状況【基本的な基礎データ】
 国際学会でのゲストスピーカーの延べ回数

★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目4.0.1	2010年度は2009年度に引き続き、学外において複数教員参加によるシンポジウム「グローバル社会の国際政策」を7回にわたって開催し、その成果を公刊した。また、5月には総合政策研究科とともにリサーチ・コンソーシアム総会記念事業、さらに11月にはリサーチ・フェア2011を開催して、学部生等の研究成果の公開に努めるとともに、議論の活発化によって教育効果の向上を図っている。
★ 小項目4.0.2	2010年度には8つの特定研究プロジェクトセンターが運営されており、それぞれに成果を納めている。例えば、ユニバーサルデザイン教育研究センターは、日本学生支援機構からの委託調査「障害のある生徒の進学促進・支援に関する高大連携の在り方について」について、近畿圏の高校・大学等を対象にアンケート・ヒアリング調査をおこない、報告書にまとめて刊行中である。
その他	

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目4.0.1	リサーチ・コンソーシアムやリサーチ・フェアを学部・大学院のカリキュラムに組み込むことで、教育的効果をさらに向上させる。また、シンポジウムの開催とその成果の公開等を進める等、教材開発にも努める。
★ 小項目4.0.2	共同研究の推進に、リサーチ・プロジェクトや特定研究プロジェクト・センター等の体制を整え、学部・大学院で一貫した教育研究体制を整備して、総合政策にふさわしい教育・研究システムを整える。
その他	実務家教員と研究者教員のコラボレーションによる新たな共同研究のシステムを整え、総合政策学部にもふさわしい研究体制を確立する。

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目4.0.1	異分野の教員間、とくに実務型教員と研究者教員間の共同研究等をさらに推進する必要がある。また、学外の諸機関との協力を推進して、産官学の研究協力をさらに活性化させる必要がある。
★ 小項目4.0.2	学部の予算編成等においても、各種の調査に対する支援の制度を整えるとともに、研究・教育成果のモニタリング、公表、そして学部教育への還元を図るシステムを整える。
その他	シンポジウム・学部研究会の開催、共同研究の推進等についてさらに体系的なプロデュースを進める。

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目4.0.1	“総合政策”にふさわしい教育研究組織を整えるため、特定研究プロジェクトセンターやリサーチ・プロジェクトをベースとした複数分野の教員による共同研究のシステムを創設する。
★ 小項目4.0.2	特定研究プロジェクトセンターをベースにした学部研究会の開催をプロモートして、異分野の教員間の共同研究を推進させる。さらに、リサーチ・コンソーシアムの活性化をはかり、産官学の共同研究を進める。
その他	学部研究会運営委員会の機能をさらに進め、総合政策学部全体を統一したテーマのもとに各種の研究・教育・広報活動をプロモートするシステムを整える。

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

- ★ **その他**
(自由記述) 異分野の教員間の共同研究（例えば、地球環境問題、災害復興、国際開発政策等）、あるいは学外の諸機関との交流を学部全体で統一しながら進めていく体制の整備を進める。同時に、教員間の相互理解と協力を醸成する。

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○特定プロジェクト研究センター、学部研究会など、組織の充実が進められています。共同研究の更なる推進が期待されます。

【学内委員】

○総合政策学部らしい、研究会の開催は内外で注目されつつあるので評価できます。

○丁寧な記述です。要素を視点にしたもう少し大きな観点からの説明があれば、なお全体像が分かりやすいのではないかと思います。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目4.0.1

基盤評価：なし

達成度評価：「教育研究組織が、当該大学、学部・研究科等の理念・目的を実現するためにふさわしいものである」

○小項目4.0.2

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、教育研究組織の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

- ★ 現在、総合政策学部全体のカリキュラムの見直しにより、総合政策学部の各教員が有している資源（シーズ）を有機的に結び付けることで、教育・研究の活性化をはかっていきたいと考えております。そのためにも、研究センターや各種研究会の開催をより充実したものにしていきたいと考えております。